

## 第29回 支店長のわがまち紹介

# 茨城県銚田市

農業と豊かな自然を守り・広める

メロンの栽培 (写真提供 銚田市)



茨城県内の44の市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第29回は、銚田市です。筑波銀行は、市内に1カ所3カ店の営業店を設置し、銚田市の皆さまと密接な関係を築いています。銚田支店長の岡部和幸が、銚田市長 鬼沢保平氏にお話を伺いました。

### ●銚田市が一番と考えていること、自慢できることはなんですか

本市は太平洋と涸沼、北浦の2つの湖に面しています。涸沼はラムサール条約湿地に登録され、北浦は関東地方で唯一カムリカイツブリの繁殖が確認できるなど、非常に豊かな環境が保たれています。土地は平坦で、関東ローム層の水はけの良い赤土です。気候も良く、農業に最適です。

恵まれた自然環境と地形を活かし、古くから農業が盛んで、市町村ごとの農業産出額の統計（平成18年分まで公表）では、総産出額は全国第5位です。産出額が全国1位の作物はメロン、水菜、サツマイモ、ゴボウ、産出額が茨城県内で第1位の作物はイチゴ、トマト、ニンジン、山芋、パセリ、ハウレン草です。ただ、メロンの生産量は全国的に減少しており、本市もメロンに代わって水菜、ハウレン草、小松菜の生産が増えています。首都圏に近く、新鮮なまま市場に出荷できます。

そして、広い耕地を所有する農家も多く、収入も比較的多かったため、二男や三男も新宅して不自由なく生活ができました。このことがある意味



名産品 (写真提供: 銚田市)

では、農家の向上心を失わせる要因ともなりました。象徴的なのは、サツマイモ農家は収穫したサツマイモを

全く加工せず出荷していました。耕地面積の狭い地域は、作物に付加価値をつけていかに高く売るかを目指しますが、本市は農地が潤沢なので、作物の価格が他の地域より1~2割安ければ、2割以上生産を増やせばよいという考え方でした。しかし、これからは付加価値が大切だということは本市も農家も十分承知しています。

農家の意識が変わったのは、平成14年頃、ナフサクという農薬が使用できなくなっていたことを認識しておらず、せっかく収穫したメロンを廃棄しなくてはならなくなったことがきっかけです。それを機に、今までよりもっと良いものをつくらなくてはならないという意識に変わり、作物に付加価値を付けることにも目が向くようになったのです。

本市を宣伝してくれるキャラクター「ほこまる」は平成20年に誕生しました。ゆるキャラブームの前に導入したことも自慢です。



ほこまる (写真提供 銚田市)

### ●今後の展望についてお聞かせください

「まち・ひと・しごと創生」の取組みを進めています。市民に人口についてのアンケートを行ったところ、進学や就職で本市を出て行った子どもたちが戻ってくることは非常に少ないことがわかり、戻って来てもらうためには市内での雇用の拡充がカギだと考えています。雇用を拡充し、結婚して家庭を持ち、子どもを産み育てる環境を整えてい



鬼沢市長

きます。インフラ整備が不十分でしたので、企業誘致は困難な面がありましたが、東関東自動車の延伸により、首都圏からのアクセスが飛躍的に向上することに期待しています。

多くの人に本市に来てもらい、交流人口の増加を図ります。本市の豊かな自然を満喫し、豊富な農業資源に親しんでもらうことをきっかけに、定住人口の増加を目指します。

本市は農業を大切な産業として推進してきました。最近の農家の経営は農業法人化が広く浸透し、外国人研修生をはじめ従業員を雇い、賃金を支払い、市内外にお金が回るようになりました。農家が利益をあげれば市も税収が望めます。経営が軌道に乗れば自信を持って働けるようになり、新たな雇用が生まれます。そして、ともに農業に取り組む偶者も来て、後継者が生まれます。

今後さらに農業を振興し、雇用を生み出すことを目指します。経営が順調な農家には後継者がいます。本市の農家の経営者に若い人が多いことも本市の特徴で、人を雇い、規模を大きくすることに柔軟に対応できます。

ただ、研修生は言葉の問題などで細かい説明を理解してもらいにくいこともあって、作物によっては対応が難しい実情もあります。メロンは栽培工程が非常に多く、日々作業が変わるので、研修生の指導もきめ細かく行わなくてはなりません。葉物野菜はメロンより収穫までの期間が短く、年に5回程程度の収穫が可能のため反復作業が多く、比較的栽培工程を覚え易いのが特徴です。このことも、メロンの栽培が減少する要因です。

さらに、交流人口の増加に加え、市内の人口の増加にも取り組みます。本市の合計特殊出生率は1.4ですが、既婚女性では2.2なので、全体の出生率を上げるために既婚女性の割合を上げたいと考えています。昔は世話好きの仲人さんが適齢期の男女を結びつけてくれましたが、今は出会いも難しい時代です。今後、市でも結婚や子育てへの支援や相



銚田うまかつペフェスタ(写真提供:銚田市)

談に取組みます。

本市のサツマイモは卸売業者や加工業者が大量に買い付けに來ます。本市の農家で、特に若い経営者はバイタリティのある人が多く、農協を通さずに自ら販路を見つける人が多いことも特長です。加



岡部支店長

工して付加価値をつけて販売することへの取り組みや、生産者同士の連携も始まったばかりです。

本市は観光資源をPRするのと同じように農業をPRしています。平成20年に「銚田市産地ブランドアップ振興協議会」を設立しました。銚田市産の農産物加工品の販売を促進することが目的で、A級品を原料とした品質の高い加工品をつくることを目指しています。首都圏のみならず、長野、仙台、盛岡でもPRを行い、CMをつくり、テレビ番組に出演して本市の農産物を宣伝しています。イチゴとメロンの時期に合わせ年2回各地を回りますが、JAと生産者と市長＝行政も宣伝活動に参加していることが注目され評価されていると自負しています。長野市ではスーパーに本市産の商品を販売するコーナーが常設され、売上も増加しています。

平成28年6月4～5日の「第2回全国メロンサミット」の開催に向けて準備を進めています。生産関係者が一堂に会して情報交換や交流することで、全国的に減少しているメロンの生産や流通体制の新たな展開を模索します。メロン栽培は日本列島の季節の移り変わりに伴い九州→本州→北海道と収穫時期がずれるので、各産地は競争しながらも連携できます。昨年6月に静岡県袋井市で第1回全国メロンサミットが開催され、毎年開催していくことも決まり、第2回目の開催地としてメロンの生産量全国1位の本市が選ばれました。全国のメロン産地、茨城県内のメロン産地に幅広く集ってもらい、地域の人に広くメロンと本市をPRします。

### ●筑波銀行に期待することはなんですか

銚田支店は銚田市の市街地にあり、駐車場が広がり、とても利用しやすくなりました。支店の竣工時、所属していた商工会青年部でお祝いに行ったことを覚えています。歴史のある支店で、かつては市内に3カ所の支店があり、市民との取引は厚いので、今後も引続き、市民生活を金融面で支援して下さい。

市街地で開催されるイベント会場として駐車場を使ったり、行員がボランティアで手伝ってくれたり、筑波銀行の活動や存在が地域にとってプラスになることを望んでいます。